

学科名	生物環境化学科・電気通信工学科・建築・デザイン学科・情報学科・経営ビジネス学科						
科目名	教育心理学						
科目区分	教職科目	単位数	2	開講時期	1年次後期		
必修・選択の別	選択(教職必修科目)						
担当者	小林 美緒 Mio KOBAYASHI						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育場面における教育心理学の必要性を説明できる。 ・発達理論および主要な発達用語について説明できる。 ・学習理論および主要な教授学習法について説明できる。 ・パーソナリティ理論および人格の測定法について説明できる。 ・教育相談の方法を理解し、代表的な心理療法について説明できる。 ・学級集団の特性および集団測定法について説明できる。 						
日程と内容	<p>9/14 導入～授業の進め方と概要の説明、成績評価法の提示、教育心理に含まれる領域とその意義～</p> <p>9/19 心理学の歴史と教育心理学の成立、教育心理学の方法</p> <p>9/28 発達～発達の捉え方、遺伝か環境か論争～</p> <p>10/5 発達～発達の様相、発達段階の諸説①～</p> <p>10/10 発達～発達の様相、発達段階の諸説②～</p> <p>10/19 発達～愛着理論、発達に関連するキーワード～</p> <p>10/26 学習～学習理論、記憶のメカニズム～</p> <p>11/2 学習～動機づけ、教授学習法～</p> <p>11/9 パーソナリティ～パーソナリティの定義、パーソナリティ理論～</p> <p>11/16 パーソナリティ～心理検査によるパーソナリティの測定～</p> <p>11/30 知能～知能の捉え方、知能検査～</p> <p>12/7 不適応行動～欲求不満、葛藤、適応機制、問題行動～</p> <p>12/14 心理療法～カウンセリングの基本的技法、心理療法理論～</p> <p>12/21 教育評価～教育評価の意義、教育評価の方法～</p> <p>1/18 学級集団～集団の特性、集団の発達プロセス、集団測定法～</p> <p>(1/25 最終試験)</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	20%	プレゼンテーション				
	課題		計				
	演習				100%		
授業到達目標の達成度	心理学の初学者が大半であることを考慮し、テキストの内容の焦点化や中間確認テストを行うなどの対応により知識の定着を図った。最終試験では、昨年度最終試験の合格率77%から今年度は89%へと合格率が上昇しており、全体として、今年度は多くの学生が到達目標を達成できているようである。アンケート結果においても、授業の内容理解において全員が3以上であり、理解出来た以上の評価は全体の8割近くとなっていた。						
反省点	昨年度は最終テストの試験範囲の広さ(テキスト1冊分)への不満が見られたため、今期は初回の講義で学生の要望を聞いた上で、中間テストを挟むことで最終テスト範囲の削減を図った。授業内容に関しては全体的にほぼ3以上の肯定的な評価となっていたが、予習・復習の評価において、しっかり時間を掛けている学生がいる一方で、1時間未満という学生が6割以上であった。毎回の予習・復習をより明示していきたい。						
来年度の計画	基本的な到達目標および授業内容は同一とし、引き続き来期も中間テストによる途中の評価を積極的に位置付け、知識の定着と教員に向けての意識の向上を図りたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	自由記述では「分かりやすかった・面白かった・楽しかった」のように、素朴に教育心理学に興味や関心を持たたという意見が多く見られた。教員採用試験に向けて学生が主体的に意欲を向上できるように、今後も初学者が多いことを意識した授業作りをしていきたい。						
履修登録者数	64名	定期試験 受験者数	56名	合格者数	50名	合格率	89%